

診療情報を集めて行う臨床研究に関するお知らせとお願い

熊本機能病院 総合リハビリテーション部では、「発育性股関節形成不全における両側人工股関節全置換術前後の大殿筋と中殿筋の筋断面積の経過について」の研究に取り組んでいます。

研究の概要

発育性股関節形成不全は変形性股関節症になりやすいことが報告されています。変形性股関節症の方は股関節の変形により股関節周りの筋肉（大殿筋や中殿筋）が小さくなり筋力が弱くなりますが、傷ついた股関節の損傷面を取り除いて人工関節に置き換える手術（人工股関節全置換術）後にも筋肉の縮小は残り、身体機能の改善に影響しています。これまでの研究において、手術後3カ月では手術側の筋肉の大きさは反対側の大きさよりも小さいことや、手術後1年の筋肉の大きさは手術前よりも明らかに改善したといった報告はされておりますが、いずれも片側のみ人工股関節全置換術を実施された方を調査したものでした。そこで、今回、左右の人工股関節全置換術を受けられた方の手術前後の筋肉の大きさを調査します。

対象となる方

発育性股関節形成不全による変形性股関節症の方で当院にて左右の人工股関節全置換術を行った方。

対象調査期間

2015年1月1日 ～ 2020年2月29日

研究期間

2020年5月20日 ～ 2021年3月31日

利用する診療情報

年齢、性別、CT画像で計測した筋肉（大殿筋、中殿筋）の大きさ

研究機関の名称：熊本機能病院 総合リハビリテーション部

研究責任者氏名：三宮 克彦

個人情報の取扱いについて

診療情報の利用に関しては、個人情報は名前を伏せて解析されますので個人情報が漏れることはありません。また研究結果は、学術雑誌や学会等での発表に使用させて頂くことはありますが、その際も個人の特定に繋がるような情報はすべて削除いたします。

上記の研究は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づき実施しております。この研究にあなたの診療情報が利用されることに同意できない場合は対象と致しませんので、お手数ですが下記のお問い合わせ先にご連絡ください。また、ご不明な点があるとき、または研究計画等に関する資料をお知りになりたい場合は、他の対象者の個人情報や研究全体に支障となる事を除きお知らせすることができますので、ご連絡ください。特段のお申し出がない場合は、上記の利用目的のために患者さんの個人情報を利用させていただくことに対して同意が得られたものとさせていただきます。また、研究にご協力いただけない場合でも診療上の不利益を被ることはありません。

お問い合わせ先

熊本機能病院 総合リハビリテーション部 理学療法士 三尾 和弘

T E L : 096-345-8111(内線 2563)、 F A X : 096-345-8188